

(19)日本国特許庁(JP) (12)登録実用新案公報(U) (11)実用新案登録番号
実用新案登録第 3146916 号
 (U3146916)

(45)発行日 平成 20 年 12 月 4 日(2008.12.4) (24)登録日 平成 20 年 11 月 12 日(2008.11.12)

(51)Int.Cl.		F1			
F4 1 J	3/00	(2006.01)	F41J	3/00	
F4 1 B	5/00	(2006.01)	F41B	5/00	J

評価書の請求 未請求 請求項の数 7 0L (全 8 頁)

(21)出願番号	実願 2008-6749(U2008-6749)	(73)実用新案権者	508288755
(22)出願日	平成 20 年 9 月 25 日(2008.9.25)		太田 耕平 北海道札幌市西区山の手 5 条 3 丁目 1 - 3 0 - 3 0 3
		(74)代理人	100095267 弁理士 小島 高城郎
		(74)代理人	100069176 弁理士 川成 靖夫
		(74)代理人	100124176 弁理士 河合 典子
		(74)代理人	100108051 弁理士 小林 生央
		(72)考案者	太田 耕平 北海道札幌市西区山の手 5 条 3 丁目 1 - 3 0 - 3 0 3

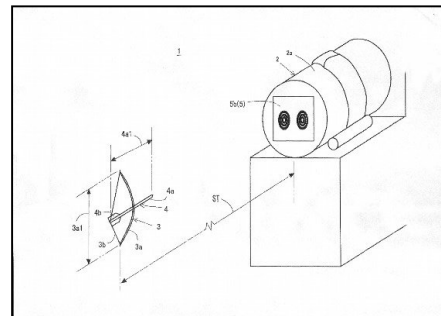
(54)【考案の名称】小弓道セット

(57)【要約】 (修正有)

【課題】小弓道において、より多くの人々が同時に楽しめる多様な競技方法を実施可能とする小弓道セットを提供する。

【解決手段】小弓道を行うための小弓道セット 1 であって、巻きわら部 2 と、弓部 3 と、矢部 4 と、的紙 5 とを備え、的紙 5 は、第 1 種 ~ 第 n 種 (n は 2 以上の自然数) の n 種類の的紙からなる的紙群から選択され、各的紙には、1 ~ n 個のそれぞれの個数の小まとが表記されている。的紙に複数の小まとが表記されている場合、それら複数の小まとが、回転対称、左右対称または上下対称に配置されている。的紙に表記された小まとの数が多いほど、1 つの小まとの径が小さくなっている。2 個以上の小まとが表記されている場合に、各小まとの中心に 1 から順に番号が表記されている。

【選択図】図 1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

小弓道を行うための小弓道セット(1)であって、
 巻きわら部(2)と、弓部(3)と、矢部(4)と、的紙(5)とを備え、前記的紙(5)は、第 1 種 ~ 第 n 種 (n は 2 以上の自然数) の n 種類の的紙(5a ~ 5L)からなる的紙群から選択され、各的紙には、1 ~ n 個のそれぞれの個数の小まと (5a3 ~ 5d3) が表記されていることを特徴とする小弓道セット。

【請求項 2】

前記的紙(5a~5L)に複数の小まと(5a3~5d3)が表記されている場合、それら複数の小まと(5a3~5d3)が、回転対称、左右対称または上下対称に配置されていることを特徴とする請求項1に記載の小弓道セット。

【請求項3】

前記的紙(5a~5L)に表記された小まと(5a3~5d3)の数が多いほど、1つの小まとの径が小さくなっていることを特徴とする請求項1または2に記載の小弓道セット。

【請求項4】

2個以上の小まとが表記されている場合に、各小まとの中心に1から順に番号(5b3S~5d3S)が表記されていることを特徴とする請求項1~3のいずれかに記載の小弓道セット。

【請求項5】

前記弓部(3)及び矢部(4)の各々の長さが160cmであることを特徴とする請求項1~4のいずれかに記載の小弓道セット。

【請求項6】

前記第1種の的紙の小まとの直径が12cmであることを特徴とする請求項1~5のいずれかに記載の小弓道セット。

【請求項7】

請求項1~6の小弓道セットに含まれる、第1種~第n種(nは2以上の自然数)のn種類の的紙(5a~5L)からなる的紙群から選択された複数の的紙からなる的紙セット。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、四半的弓道における弓矢またはこれと同等の弓矢を用いて小弓道を行うための小弓道セットに関する。

【背景技術】

【0002】

本格的な日本弓道を少しでも手軽に行うための標的、的場、簡易弓道場などの発明が提示されている(特許文献1、2)。しかしながら、日本弓道は、弓が長く弦も硬いため引分けに力を要し、また、巻きわらも大きく重く、距離も長く場所をとるため、性別年齢に関わらずだれでも、どこでも、気軽に楽しむことは、難しい。

【0003】

一方、四半的弓道は、宮崎県日南に古くから伝わる小規模で簡易な弓道である。的まで4間半(8m20cm)の距離で、4尺5寸(約1m60cm)の弓と矢を使い、直径4寸5分(約13cm)の的を射って当たりを競う。全ての道具の長さが「4・半」なので四半的と呼ばれている。

一般的な競技方法は、座射で例えば30射を行い、当たりの本数で競う。

【特許文献1】登録実用新案第3025082号公報

【特許文献2】登録実用新案第3143151号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】**【0004】**

本願の考案者は、四半的弓道から基本的な着想を得て日本弓道の長所も取り入れた新しい弓道である「小弓道」を考案した。本考案は、小弓道において、より多くの人々が同時に楽しめる多様な競技方法を実施可能とする小弓道セットを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0005】**

上記の目的を実現するため、本考案は、以下の構成を提供する。

- 1) 小弓道を行うための小弓道セット(1)であって、巻きわら部(2)と、弓部(3)と矢部(4)と、的紙(5)とを備え、前記的紙(5)は、第1種～第n種(nは2以上の自然数)のn種類の的紙(5a～5j)からなる群から選択され、各的紙には、1～n個のそれぞれの個数の小まと(5a3～5d3)が表記されていることを特徴とする。
- 2) 上記小弓道セットにおいて、前記的紙(5a～5j)に複数の小まと(5a3～5d3)が表記されている場合、それら複数の小まと(5a3～5d3)が、回転対称、左右対称または上下対称に配置されていることを特徴とする。
- 3) 上記小弓道セットにおいて、前記的紙(5a～5j)に表記された小まと(5a3～5d3)の数が多いほど、1つの小まとの径が小さくなっていることを特徴とする。
- 4) 上記小弓道セットにおいて、2個以上の小まとが表記されている場合に、各小まとの中心に1から順に番号(5b3S～5d3S)が表記されていることを特徴とする。
- 5) 上記小弓道セットにおいて、前記弓部(3)及び矢部(4)の各々の長さが160cmであることを特徴とする。
- 6) 上記小弓道セットにおいて、前記第1種の的紙の小まとの直径が12cmであることを特徴とする。
- 7) 上記小弓道セットに含まれる、第1種～第n種(nは2以上の自然数)のn種類の的紙(5a～5j)からなる群から選択された複数の的紙からなる的紙セットも提供する。

【考案の効果】

本考案においては、小弓道を行うための小弓道セットtが、標的として用いるn種類の的紙を備え、各的紙には、1～n個のそれぞれの個数の小まとが表記されているので、一人でも小弓道を行うことができ、かつn人までの任意の数の人が同時に小弓道を行うこともできる。比較的狭い場所や案内でも競技を行うことができる。例えばnが10である場合、10種類の的紙からなる小弓道セットとなる。この場合、・競技において、必ずしも全ての的紙を利用する必要はなく、人数や場所に応じて、10種類のうちの・部の的紙のみを利用して競技を行うこともできる。一競技において、一人が複数の的紙を利用したり、複数人が1つの的紙を利用したりすることもでき、多種多様な利用方法(競技方法)が可能となる。

【0007】

また、複数の小まとが対称的に配置されていること、小まとの数が多いほど、1つの小まとの径が小さくなっていること、2個以上の小まとがある場合に中心に順に番号が付されていることを利用すれば、競技方法のバリエーションは無数に考えられるので、多様な楽しみ方が可能となる。

【0008】

四半的弓道用と同等の弓矢を用いる小弓道は、さほど力も必要とせず、年齢性別や身体能力によらずほとんど誰でも行うことができる。また、距離も短いため場所もとらず、どこでも行うことができる。座射、椅子射、立射のいずれも可能である。本来、弓道は、精神修養的要素をもった武道であるから、一人で行っても心身に対して医療的な効果があるが、複数人で共に行うことによりゲームとしての楽しさが増すため、より大きな効果が得られる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0009】

以下、図面を参照して本考案の実施の形態の詳細を説明する。

図1は、本考案の小弓道セット1の構成を概略的に示す斜視図である。小弓道セット1の構成は、巻きわら部2と、弓部3と、矢部4と、巻きわら部2の正面側小口に着脱自在の状態に取り付けられた的紙5とを備えている。的紙5は、以下の図2～図7に一部を例示する第1種～第n種(nは2以上の自然数)の的紙からなる的紙群から選択されたいずれかの的紙である。図1中、STは射程を示す。

【0010】

巻きわら部2は、わらを束ねて縄を巻いてくくって構成された公知のものである。巻きわら部2は、直径約30cmで、長さ約50cmが好適であるが、これに限定されない。

【0011】

弓部3は、四半的弓道で公知のものと同様に、弓幹3aと弦3bなどから構成されているが、弓幹3aの長さ3a1は、一般的には約165cmが扱いやすい。弓の強さは、身体能力に合わせて最も弱い3.7kg程度から強いものまで選択できる。

【0012】

矢部4は、四半的弓道で公知のものと同様に、やがら4a、はず(図示略)、羽4b、やじり(図示略)などから構成されているが、やがら4aの長さ4a1は約152cmと、日本弓道の弓よりかなり長いものが、身近で指導するには安全で扱いやすい。

【0013】

図2に示す第1種の的紙5aは、1個の小まとを表記した的紙であり、「一的小ま」と称する。第1種の的紙5aは正面方形の厚紙などでなる白紙の平板5a1の中心に、1個の標的としての小まと5a2を描いて構成されている。小まと5a2は、黒色中心円5a21と、この黒色中心円の外周に描かれた内方の黒色同心円5a22と外方の黒色同心円5a23とを描いて構成されている。

【0014】

図3に示す第2種の紙5bは、2個の小まとを表記した的紙であり、「二的小ま」と称する。第2種の紙5bは、正面方形の厚紙などでなる白色の平板5b1に描かれた標的の外周を示す輪郭5b2内に、2個の小まと5b3を描いて構成されている。小まと5b3は、黒色中心円5b31と、この黒色中心円の外周に描かれた内方の黒色同心円5b32と外方の黒色同心円5b33とを描いて構成されている。さらに、黒色中心円5b31内に、順序を示す「1」、「2」の番号5b3Sが表記されている。2個以上の小まとを表記した的紙においては、各小まとの中心に順に番号が付される。この小まと中心の番号は、例えば、複数の競技者が1つの的紙を標的として競技する際に、各競技者がねらう標的を区別するために用いたりする。競技方法により、多様な利用方法がありえる。

【0015】

図4に示す第3種の紙5cは、3個の小まとを表記した的紙であり、「三的小ま」と称する。第3種の紙5cは、正面方形の厚紙などでなる白色の平板5c1に描かれた標的の外周を示す輪郭5c2内に、3個の小まと5c3を描いて構成されている。小まと5c3は、黒色中心円5c31と、この黒色中心円の外周に描かれた内方の黒色同心円5c32と外方の黒色同心円5c33とを描いて構成されている。さらに、黒色中心円5c31内に、順序を示す「1」、「2」、「3」の番号5c3Sが表示されている。

【0016】

図5に示す第5種の紙5dは、5個の小まとを表記した的紙であり、「五的小ま」と称する。第5種の紙5dは、正面方形の厚紙などでなる白色の平板5d1に描かれた標的の外周を示す輪郭5d2内に、5個の小まと5d3を描いて構成されている。この例では、中心の小まと5d3が、周囲の4個の小まと5d3より小さいが、中心の小まと5d3を周囲のものと同じ大きさとしてもよい。小まと5d3は、黒色中心円5d31と、この黒色中心円の外周に描かれた内方の黒色同心円5d32と外方の黒色同心円5d33とを描いて構成されている。さらに、黒色中心円5d31内に、順序を示す「1」、「2」、「3」...「5」の番号5d3Sが表示されている。

【0017】

図6に示す第7種の紙5eは、7個の小まとを表記した的紙であり、「七的小ま」と称する。第7種の紙5eは、正面方形の厚紙などでなる白色の平板5e1に描かれた標的の外周を示す輪郭5e2内に、7個の小まと5e3を描いて構成されている。この例では、中心の小まと5e3が、周囲の6個の小まと5e3より小さいが、中心の小まと5e3を周囲のものと同じ大きさとしてもよい。小まと5e3は、黒色中心円5e31と、この黒色中心円の外周に描かれた内方の黒色同心円5e32と外方の黒色同心円5e33とを描いて構成されている。さらに、黒色中心円5e31内に、順序を示す「1」、「2」、「3」...「7」の数字5e3Sが表示されている。

【0018】

図7に示す第10種の紙5fは、10個の小まとを表記した的紙であり、「十的小ま」と称する。第10種の紙5fは、正面方形の厚紙などでなる白色

の平板 5 f 1 に描かれた標的の外周を示す輪郭 5 f 2 内に、10 個の小まと 5 f 3 を描いて構成されている。小まと 5 f 3 は、黒色中心円 5 f 3 1 と、この黒色中心円の外周に描かれた内方の黒色中心円 5 f 3 2 と外方の黒色同心円 5 f 3 3 を描いて構成されている。さらに、黒色中心円 5 f 3 1 内に、順序を示す「1」、「2」、「3」...「10」の数字 5 f 3 S が表紙されている。

【0019】

上記の例では、第1種、第2種、第3種、第5種、第7種、第10種の5種類の紙を示したが、一般的に本考案の小弓道セットで用いる的紙は、第1種～第n種（nは2以上の自然数）のn種類の的紙からなる的紙群から選択される。第n種の的紙には、n個の小まとが表記されており、「n的まと」と称する。的紙に複数の小まとが表記されている場合、それら複数の小まとは、回転対称、左右対称または上下対称に配置されている。n個の小まとを表記した第n種の的紙には、小まとの対称配置の形態の異なる種類のものがあってもよい。

【0020】

本考案における的紙では、表記された小まと 5 a 3 ~ 5 f 3 の数が多いほど、1つの小まとの径が小さくなっている。すなわち標的が小さくなるため、技術的難度が上がる。

【0021】

図8は、その他の的紙の幾つかの例を示したものである。5 g は第4種の紙（四的まと）の一例であり、5 h は第5種の紙の別例であり、5 i は第6種の紙（六的まと）の一例であり、5 j は第7種の紙の別例であり、5 k は第8種の紙（八的まと）の一例であり、5 L は第9種の紙（九的まと）の一例である。

【実施例】

【0022】

実施例は下記の通りである。

- 1) 第1種の的紙の標的における直径を 12cm とする。
- 2) 第2種の的紙の標的における直径を 9.5cm とする。
- 3) 第3種の的紙の標的における直径を 8.0cm とする。
- 4) 第4種の的紙の標的における直径を 7.5cm とする。
- 5) 第5種の的紙の標的における直径を 7.5cm とする。
- 6) 第6種の的紙の標的における直径を 6.5cm とする。
- 7) 第7種の的紙の標的における直径を 6.0cm とする。
- 8) 第8種の的紙の標的における直径を 5.5cm とする。
- 9) 第9種の的紙の標的における直径を 5.0cm とする。
- 10) 第10種の的紙の標的における直径を 4.5cm とする。

【0023】

競技方法は、多様に創出可能であるが、基本的には、上達するにつれて、以下のように的紙の種類を替えていく。

- 1) 小まとの数が多くなっていく。
- 2) 小まとの径が小さくなっていく。
- 3) 射程 S T は随意であるが、長くする。

【0024】

段位については、例えば射程 S T が 5m で四的まるとに全的中すれば、「5m 四的 4 段位」を与える。

【0025】

競技方法の一例として、巻きわら 1 個に、1 人、2 人、3 人... と複数選手の競射が可能である。この競技方法の目的は、射場の広さからくる制限を排除するためである。

【図面の簡単な説明】

【0026】

【図 1】本発明の略図的斜視図である。

【図 2】第 1 種的紙の拡大正面図である。

【図 3】第 2 種的紙の拡大正面図である。

【図 4】第 3 種的紙の拡大正面図である。

【図 5】第 5 種的紙の拡大正面図である。

【図 6】第 7 種的紙の拡大正面図である。

【図 7】第 10 種的紙の拡大正面図である。

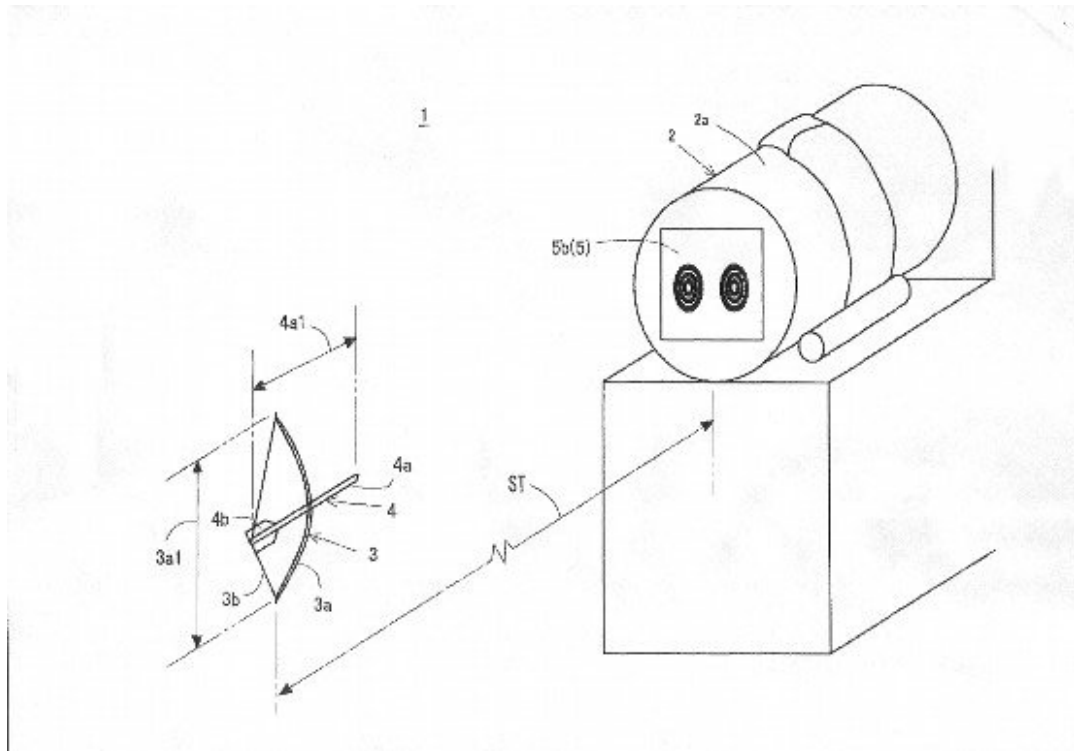
【図 8】その他の的紙の幾つかの例の拡大正面図である。

【符号の説明】

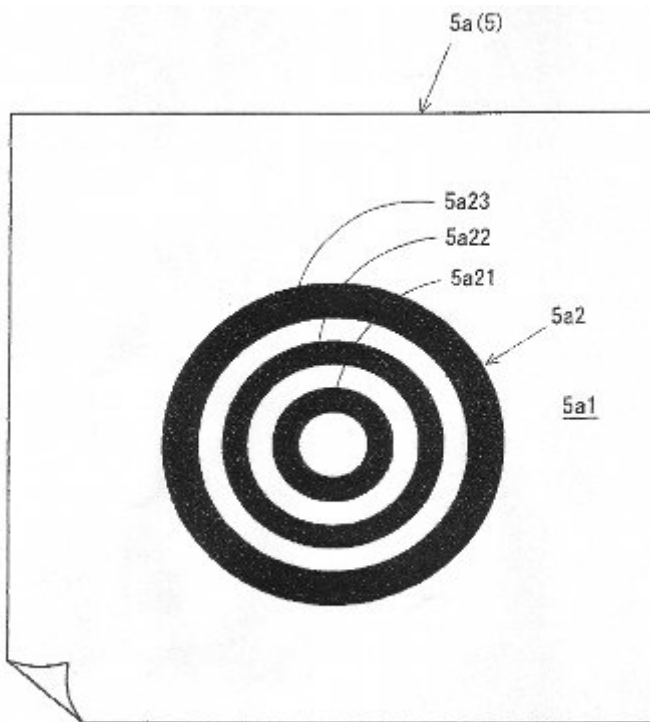
【0027】

- 1 小弓道セット
- 2 巻きわら部
- 3 弓部
- 4 矢部
- 5 的紙
- 5 a 第 1 種的紙
- 5 b 第 2 種的紙
- 5 c 第 3 種的紙
- 5 d 第 5 種的紙
- 5 e 第 7 種的紙
- 5 f 第 10 種的紙

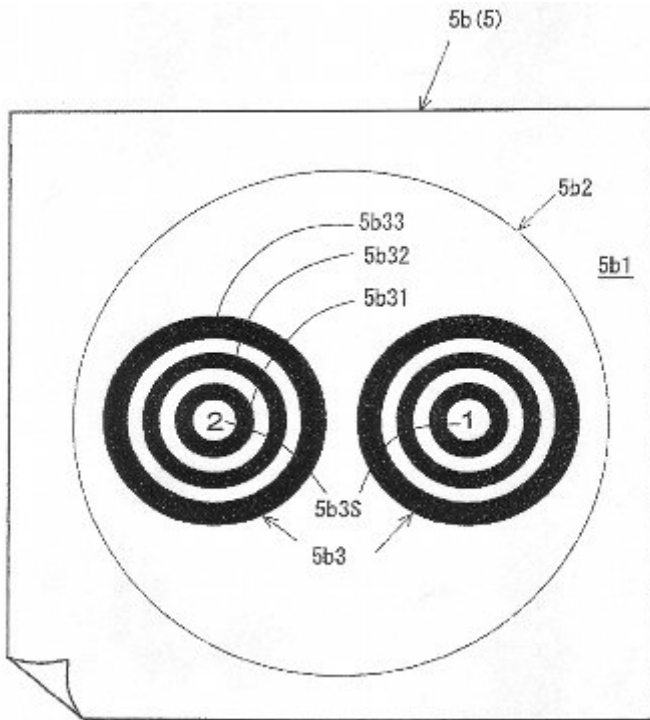
【図 1】



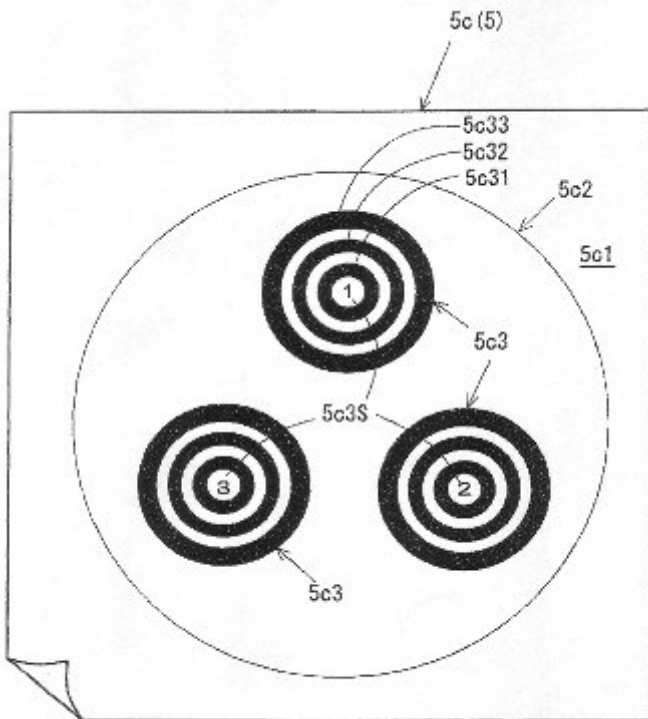
【図 2】



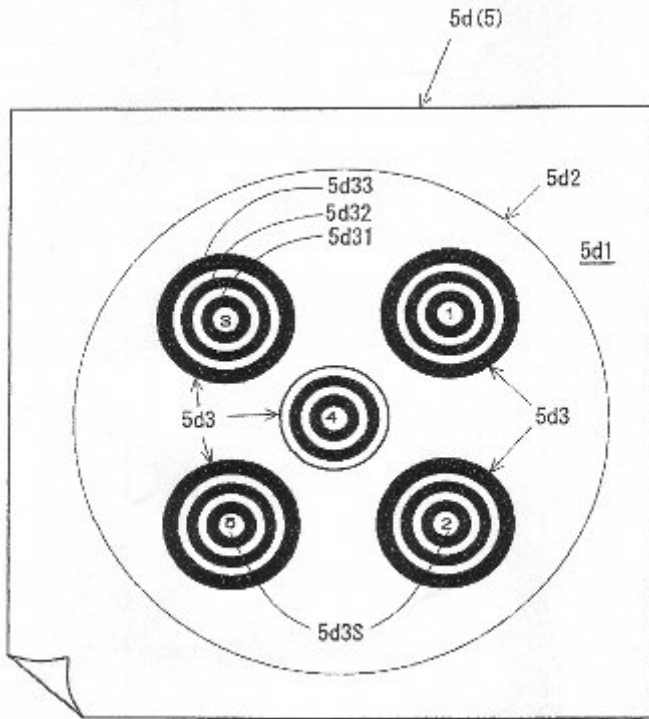
【図 3】



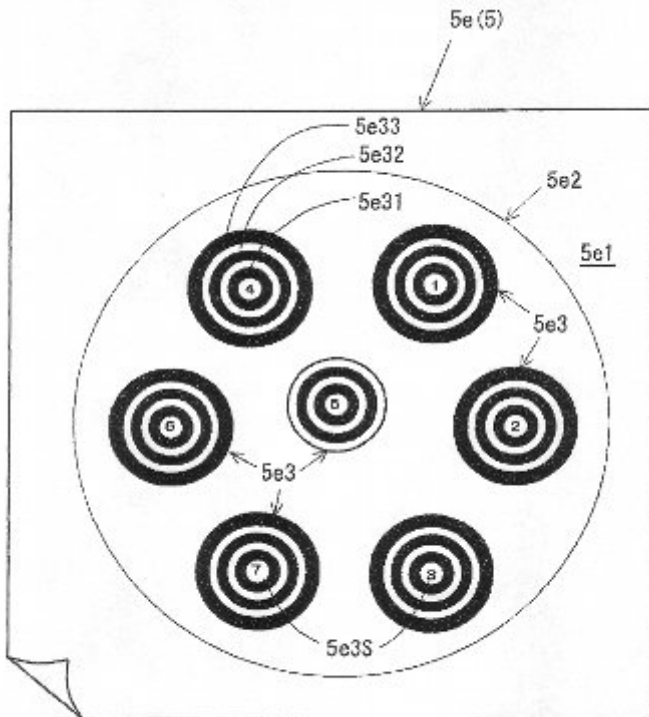
【図 4】



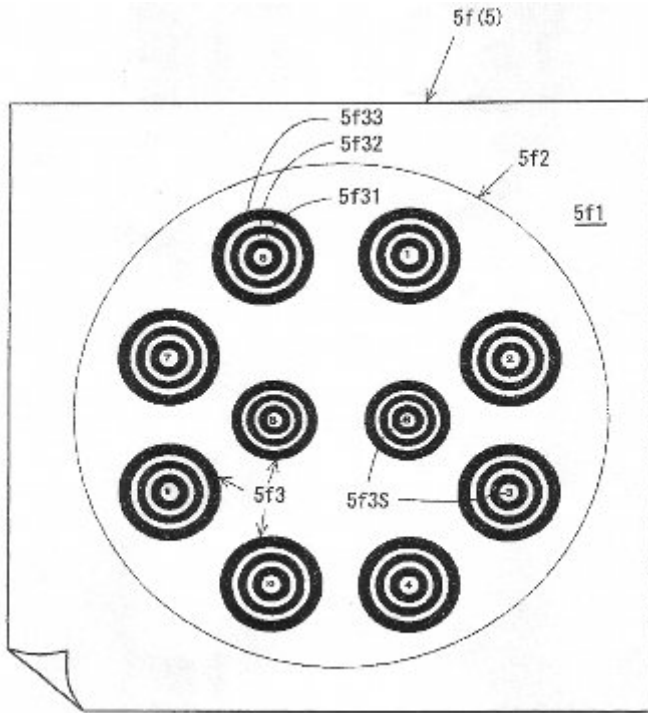
【図5】



【図6】



【図 7】



【図 8】

